



花びらと色と香を
そのなわず
ただ蜜味のみをた
ずさえて
かの蜂のとび去る
ごとく
人々の住む村落に
かく牟尼は歩めか
し（友松圓諦師訳
法句経より）

蜂は花から蜂蜜
のみを頂き、花の
色や形を害うこと
無く、しかもある
時には、花の種の
保存に迄に重要な
役割を果たす。
人間は如何？

東日本大震災物故者供養 大施餓鬼会

去る七月十六日、当山本堂において、二百名の参拝者の見守る中、東日本大震災物故者供養の為に施餓鬼会が厳修されました。法要では犠牲者のご芳名が記された過去帳が納められた位牌が開眼され、この悲しい出来事を後代に伝え、地震と津波の恐ろしさを知らしめることにより後の世の人々を救うべく、読経がなされました。

法要後には、今回の津波で新築間もない伽藍に多大な被害を受けたが、寺門復興の為に懸命な努力をなさっている気仙沼地福寺住職片山秀光師による法話を拝聴しました。今回の法話には、話の合間に富塚孝さんの三味線に乗せて、津波からの復興と命の尊さをテーマとし



た歌が挿入されました。法要後は、やはり震災で筆舌に尽くし難い被害を受けながらも六月から営業を再開させたいな長さんのソースかつ井が参拝者に振る舞われました。

ハワイ開教院より支援金

僧侶ボランティアの会

震災後、有志寺院と協力し、火葬場読経ボランティア、身元不明者の通夜及び出棺経、炊き出し等の活動を行いました。また、当山の姉妹寺院であるハワイ開教院がハワイの方々に募り、総額約五八〇万円の支援金を集めて頂き、県内の関係寺院、幼稚園に寄付させて頂くことができました。募財の中心となられ尽力された山口良三和尚、開教院役員各位には心より御礼申し上げます。尚、山口和尚は四月初旬より二ヶ月間当山に滞在され、各地でボランティア活動をされました。

現在、僧侶のボランティアの会は市内の慈雲寺様が中心となり、臨済宗寺院有志が協力し、仮設住宅にてかき氷やコーヒー等の提供を行い、避難者の声に耳を傾けています。この活動は毎週水曜日に実施され、しばらくの間、継続されます。私達のグループは同じ被災者という立場で、皆さんのお役に立てることを模索しています。僧侶が出来そうな事、してもらいたい事がございましたら、東園寺迄ご連絡ください。



御礼

この度の東日本大震災に際しましては、法縁各位より格段のご厚情お見舞い等を賜り誠に有難うございました。皆様より頂戴致しましたご芳志はより良く活きますように熟慮を重ね使用させて頂きました。今後とも広域となる被災地に対するご理解とご関心をお持ち頂ければ幸甚と存じます。

ご芳志のご紹介



震災により破損した四代藩主綱村公のお位牌が、東北工芸様の尽力と蒔絵師渡辺栄一様の技術により、従



来の古格を留めたままに修復して頂きました。また、今回の修復は東北工芸社長の佐浦康洋様の寄進により、実施されました。誠に有難うございました。裏面は炭化した砂糖を添付し補強がなされています。仙台平や堤焼き等、藩内の工芸文化を興された綱村公です。お位牌が宮城県内の職人により修繕された事を、とても喜んでくださっているに違いありません。

お盆の供養について

○七如来名号（精霊札）授与

・本年は去る七月十六日の施餓鬼供養にて七如来名号（精霊符）の開眼供養が済んでおります。お盆期間前の受け取りが可能です。尚、団扇の配布はお盆期間中のみと致します。

○お墓掃除 八月八日より十二日まで

・お盆の期間が始まる前に墓地の清掃を行いまししょう。

○お盆期間中の法要

八月十二日 午後六時 精霊迎え法要

・蓮華の形をした蠟燭の灯で御霊を迎えます。法要後は参加者各家に蠟燭を差し上げます。（数に限りがありますので、各家に付き一つとさせていただきます。）

・どなたでもお参りして頂きます。

八月十三日 午前六時～午後五時

・例年通り、七如来名号（精霊札）を授与します。

・喪中の家以外は赤の熨斗袋に布施と書いて納めて頂ければ結構かと存じます。

八月十四日 午前十時 新亡供養

・新亡の方には改めてご案内を申し上げます。

八月十五日 午前十一時三〇分 平和祈願戦没者供養法要

・寺内の法要ですが、ご自由に参拝して頂いて結構です。

八月十六日 午後六時 精霊送り法要

・お盆の各自宅にお持ち頂いた七如来名号の総供養です。

・お返し頂いた方すべての家名を住職が唱え供養します。

・どなたでもお参りして頂きます。

・七如来名号は必ず十六日午後六時までに返却して下さい。もし返却出来なかった場合は自宅で焼いて頂くか、後日寺に納めて下さい。

○盂蘭盆会供養塔婆 一体七〇〇円 八月一日より受け付けます



・ご自分の墓地はもちろん、他家の墓地にお参りした際の供養のおしるしにお供えください。

お盆の法要と七如来（精霊札）について

○棚行はしないの？

東園寺では昭和四十二年より、従来行われていた自宅にお伺いしお盆の読経を申し上げる棚経（たなぎょう）を廃止し、檀信徒の方々に精霊迎え法要や精霊送り法要にご参加頂き、七如来の名号（従来は精霊符と呼称）をお受け頂くことにより、お盆の供養としております。是非、精霊迎え法要（八月十二日午後六時）、精霊送り法要（八月十六日午後六時）に御参加頂きたいと存じます。

○お盆とは？

お盆とは「逆さに吊るされる苦しみ」を意味するサンスクリット語、ウランバナの音写である盂蘭盆という言葉が由来です。盂蘭盆会（うらぼんえ）とは七生（今の生も含めて七回輪廻を繰り返すという意味）の父母が倒懸（逆さまに吊るされること）盂蘭盆の苦しみに遭わぬように、また父母が現存しているときは、百歳の長寿を全うするように、雨安居という三ヶ月の修行を終え、心清らかになられた僧侶に供養することであります。今日臨済宗でなされるお盆の法要は盂蘭盆会の法要と施餓鬼会と呼ばれる法要が混交されたもので、餓鬼を供養するお勤めを以てお盆の法要とされています。

施餓鬼（せがき）

施餓鬼とは六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天）の中でも三つの悪い世界（地獄、餓鬼、畜生）の一つに数えられる餓鬼道に落ちた者を救う法要です。これはお釈迦様の弟子である阿難尊者が、ある時、餓鬼に三日の命であることを告げられ、これを回避するためにお釈迦様の勧めにより行われたとすることで、直接は盂蘭盆会とは関係がありません。しかし盂蘭盆会は、餓鬼道に落ちた母を目連尊者が救う為にお釈迦様の教えにより行った法要が起源とされますので、餓鬼を救うという意味では盂蘭盆会と施餓鬼会が結びつくのは決して不自然なことではありません。

目連さんとお母さん

お釈迦様の高弟目連尊者は一所懸命に修行をした結果、人の死後の世界を見る事が出来る不思議な力を得ました。目連尊者のお母さんは既にお亡くなりなっていましたので、目連尊者はその来世を洞察したところ、なんと母親は餓鬼道にいませんか！

餓鬼道は飲食がままならぬ世界であります。お母さんはやせ衰え、見るも無残な姿となられています。神通力に長けた目連様は哀れな母に食物を運びますが、母が口にしようとすると、たちどころに食物は炎に包まれ炭になってしまいます。そこで目連尊者は神通力では母を救うことが出来ないことを悟り、お釈迦様に相談致しました。するとお釈迦様は七月十五日に懺悔を行い心清らかなった修行者達に翌日の十六日に食事を施せば、母は救われるとお勧めになり、目連尊者が教え通りに実行すると果たして見事に目連尊者のお母さんは餓鬼道から救われたと言います。この時に歓喜のあまりに目連尊者が躍ったことから盆踊りが始まったとも言われます。

餓鬼道に落ちる理由

それでは何故目連さんのような立派な方を育てたお母さんが餓鬼道に落ちてしまったのでしょうか？それは目連さんのお母さんが自分の息子や家族にのみ慈愛を与え他人には非常に冷酷だったからだと伝えられています。このような意味ではお盆の期間中は自分の先祖のことだけでは無く、広く人々の幸せを願いたいものです。



餓鬼の世界は食物を得るのにままならぬ世界であるだけに食に対する欲望はとて多いのだそうです。餓鬼が描かれる場合には喉が非常に細く、またお腹が非常に膨らんでいるように描かれるのは、欲望が大きく食が得がたい事を意味しています。餓鬼道は私利私欲が強く、他に施しをせずに人生を送った者が落ちる世界であると説かれます。七如来とはこの餓鬼道に落ち苦しむ者を救う佛様です。お盆の期間中は、七如来の名号を施餓鬼棚あるいは仏壇の本尊として頂き、自らの先祖のみならず、広く餓鬼幽霊を救うというお気持ちで供養して頂ければ宜しいでしょう。

施餓鬼棚（せがきだな）

昔は各家にも仏壇とは別に施餓鬼棚が飾られ、ご先祖様をお迎えしました。施餓鬼棚とは中央に餓鬼飯と呼ばれるご飯を置き、生霊供（なまりようぐ）と呼ばれる生野菜や、海の産物である昆布や寒天が供えられました。菰の上に蓮の葉を敷いてゆでた素麺やご飯が供えられることも多いようです。施餓鬼棚は餓鬼に施すという元来の意義からすれば、外か外に近い縁側等に荘厳し、餓鬼は太陽が嫌いなことから夕方にお供えするものですが、今日は住宅事情等もあり、仏壇の前にお盆のお供物として施餓鬼棚の名残と思われる供物が供えられる場合が多いようです。しかし、元来、施餓鬼の意味からすると、餓鬼飯（がきめし）等のお供えは家の

坐禅会

毎週日曜日 朝七時
東園寺本堂地階 教化センター
※体操を挿んで50分程度の初心者向けの坐禅会です。どなたでも参加できます。

東園寺ホームページ

毎月更新しています。掛け軸の紹介や法話のページ等盛りだくさん！

ブログ「布袋の袋」

ホームページ上の日記です。坐禅会や法話会の日程が確認して頂ける他、庭園の開花情報や、幼稚園の情報等を、ほぼ毎日更新でお伝えしています。携帯電話でもご覧頂けます。下記のQRコードをご利用ください。



先祖に供えるというよりは、先祖供養の功德を増す為に、餓鬼道に落ちた者に供えるものだと思います。

釈子塔

釈子（しゃくし）とはお釈迦様の弟子という意味です。釈子塔は先祖代々という家族単位の供養のあり方を超えて、同じ仏教徒としての供養のあり方を提案するものです。「私には子供がいない。」「家は娘ばかりでみんな嫁に行ってしまったって墓を守る人がいない。」など様々な理由で「墓地をもてない。」「墓地をもたない。」という方々の為のお墓です。墓地納骨冥加金は下記の通りです。

納骨供養料 十万円 檀信徒登録済（年会費 五千円）の方

葬儀費用 お志

特 徴
* 歴代住職と共同墓地なので、家族が絶えても恒久的に誰かが墓参してくれる。

* 維持費は基本的に不要。（故人に配偶者が居られる場合は、配偶者存命の間のみ年間五千円の維持費を頂きます。）

* 墓地を取得し、墓石を建立する費用がかからない。
○ 墓地がございます。いつでもご自由に見学して頂けます。

通称稲荷下のグランドパレス横の小路をお進み下さい。専用駐車場もございます。また、従来からの墓地にも空きがございます。こちらは新墓地よりも永代使用料がお安くなっています。こちら

※ 釈子塔は地震で倒壊し修理中です。お迷惑をお掛けしております。

○ 幼稚園隣接地に墓地をお持ちの方へ

先日の東日本大震災の経験を踏まえ、危険と思われる墓地の移動を促進しております。幼稚園隣接地に墓地が隣接している方の中で、当山が危険を認めた場合は、移転費用を助成致します。また、特に危険な墓地に關しては、補修をお願いする場合がございます。

また、現在の場所に不安を感じている方で、境内墓地内への移転のご希望がございましたら、当山までお申し付けください。当山が危険と認めた場合には、移転先の墓地冥加金は免除（新墓地の場合には土地造成費実費負担）致します。但し、移転費用は各自のご負担となります。

地蔵流し

毎年、お盆を締め括る行事として親しまれている地蔵流しですが、本年は東日本大震災の影響により、船の手配が難しい事、参加寺院の檀信徒が地震により多大な被害を被っていることに配慮し、海上での法要は中止し、マリーンゲート塩釜ウッドデッキ付近にて、震災犠牲者の追善供養と地蔵流し供養を併せて厳修致します。何卒ご了承の上、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

日時 八月二十九日（月） 午前十一時

◎ マリーンゲート塩釜ウッドデッキ付近にて法要

- 一、会 費 無し 但し予め菩提寺への申し込みが必要です。
- 一、申込期限 八月二十日（厳守のこと）
- 一、申込先 東園寺

「ご注意ください」

・ 今年には船には乗りません。・ 塔婆のお申し込みは寺務所までお願いします。一体500円です。・ 雨天でも厳修致します。

参加申込書

住所	氏名	電話	戒名

○ 塔婆供養の申し込み

塔婆は一体500円となります。尚、法要に参加されない方でも塔婆供養の申し込みは可能です。